

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第4回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第4回推進会議を、平成25年3月26日（火）に開催しました。

第4回推進会議には、6名の委員のうち3名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第4回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス
選手 ハンドボール）

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）
※北畑委員はご欠席

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）
※清水委員はご欠席

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）
※前田委員はご欠席

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）

＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 10:00

- ・スポーツ推進局次長兼スポーツ推進課長あいさつ
- ・第3回会議の概要、本年度の取組の状況及び来年度の取組の説明

プロジェクト推進についての意見交換

実践取組に掲げる3つのテーマに基づき意見交換。

- ・スポーツによる地域活性化における課題
- ・みえのスポーツを支える人づくりにおける課題
- ・障がい者スポーツの推進における課題

閉会 11:45

（スポーツ推進次長兼スポーツ推進課長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、村木輝行スポーツ推進局次長から、過去3回の会議の総括と来年度の取組にむけた意見をいただきたい旨、説明を行いました。

また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における本年度の取組状況及び翌年度の取組について、事務局職員から説明しました。



※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の3つのテーマに基づき意見交換を行いました。

スポーツによる地域の活性化における課題
みえのスポーツを支える人づくりにおける課題

障がい者スポーツの推進における課題

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題をふまえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

委員からの主な意見

スポーツによる地域の活性化における課題
(広報、財源確保など)

・国体開催について、スポーツに携わる人は知っているが、そうでない人は知らない。世代別、性別などによる認知度を現状把握できれば、広報戦略を立てやすい。

・国体の競技種目をテレビで放送することが最も効果的である。県独自の広報手段だけでなく、テレビ、ラジオなどのマスメディアを利用した広報を考えなくてはならない。

・国体ありきではなく、みえのスポーツ全般の推進を図る先に、国体開催があるような仕掛けにしないと、国体の認知度は上がらない。

・スポーツ推進(国体)の財源確保に向けて、自動販売機の設置による売上げの一部を財源とする取組は進めるべきである。

・三重のスポーツ強化月間を設け、その期間に開催する大会・イベント会場に、財源用の自動販売機を設置してはどうか。

・国体に向けた財源確保は、今から開始するべきである。一度に多額の寄附を求めても集まらない。少しずつでも毎年継続して寄附を求める手法を検討してほしい。

みえのスポーツを支える人づくりにおける課題

・全国体力・運動能力調査結果において、活発に運動する子とそうでない子の二極化が進んでいる点が重要なポイントである。能力の高い人が少ないのか、それとも能力の低い子が多くて平均値を下げているのか、平均値だけでは判断できないので、詳細な分析をしないといけない。

・三重県の子どもの体力・運動能力の平均値は、全体的に上がっており、様々な取組が功を奏していると思われる。

・子どもへの取組は重要だが、あわせて保護者への働きかけも忘れてはいけない。保護者への啓蒙教育活動も進めてほしい。セットで取り組むと効果が出ていると感じている。

・選手・指導者の受け皿について、選手1人ずつ別々の企業に採用されているが、なかなか新しい企業にサポートしていただけない状況がある。

障がい者スポーツの推進における課題

・障がい者スポーツについて、健常者が一緒に競技する機会を求める意見への対応状況はどうか。

(県)取組は、なかなか進んでいない。お金をかけずにできることに取り組みたい。

など



全体を通じた意見

・これまでの会議での意見や協議内容が、来年度の事業に何らかの形で反映されたり、三重県競技力向上対策基本方針（最終案）等に盛り込まれている。

・来年度も、これまでの議論をベースに、議論をスタートさせて、プロジェクトを推進していきたい。

今後の開催予定

推進会議は、25年度の具体的な取組に向けた意見交換を行うため、来年度以降も引き続き開催する予定です。